

高松塚古墳の壁画を美術陶板で再現

展示施設「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)を千里山キャンパスに設置

～ 35年前の発掘直後に撮影された写真から、「飛鳥美人」など極彩色の壁画を製作 ～

関西大学では、美術陶板を使って発見当時の写真から高松塚古墳の極彩色の壁画を再現する展示施設「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)を、千里山キャンパスに設置することになりました。

完成は、2008年(平成20年)3月を予定しています。

高松塚古墳の壁画については、飛鳥資料館(奈良県明日香村奥山)に前田青邨画伯を代表者とする日本画家により描かれた精密な壁画模写がありますが、陶板画による精密な複製を再現するのは日本で初めてのこととなります。

完成後は、学生だけでなく一般の方々にも無料で公開し、多数の方々に高松塚古墳の極彩色の壁画や発見当時の石室内部の状態を觀賞してもらえればと考えています。

施設設置の背景と経緯

「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)は、本学の網干善教文学部助教授(当時)が1972年(昭和47年)3月、考古学研究室の学生らとともに高松塚古墳の壁画を発見してから35年経過したことを記念して設置するものです。

奈良県立橿原考古学研究所と明日香村が実施し、「世紀の大発見」と謳われた高松塚古墳の発掘調査に本学が関わったという史実を後世に伝えるとともに、文化遺産の研究や学生の教育・研究にも資するという観点から、今年9月に設置計画が企画されました。



「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)完成予想図

展示施設の特徴

「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)の設置にあたっては、明日香村のほか、発見後に壁画などを撮影した株式会社便利堂(京都市中京区/美術印刷)の了承を得て、実現することができました。

石室と壁画は、大塚国際美術館(徳島県鳴門市)に展示されている「最後の晚餐」(レオナルド・ダ・ヴィンチ作)の修復前後の原寸レプリカを製作した実績を持つ大塚オーミ陶業株式会社が製作します。

陶器と磁器の中間となる素材「せつ器」を素材とする陶板を使って、原寸と同じ大きさの東壁、南壁、西壁、北壁、天井を製作し、発見直後(2~3日以内)に撮影された写真を元に描かれていた壁画の色彩と、はがれ落ちた漆喰などの立体感までも再現します。

「飛鳥美人」をはじめ、その他の男子像や女子像、青龍・玄武・白虎の「四神」(南壁の朱雀は未確認)、金箔と朱線で表された「星宿」が、35年前の鮮やかな色合いのまま、関西大学のキャンパスに蘇ります。

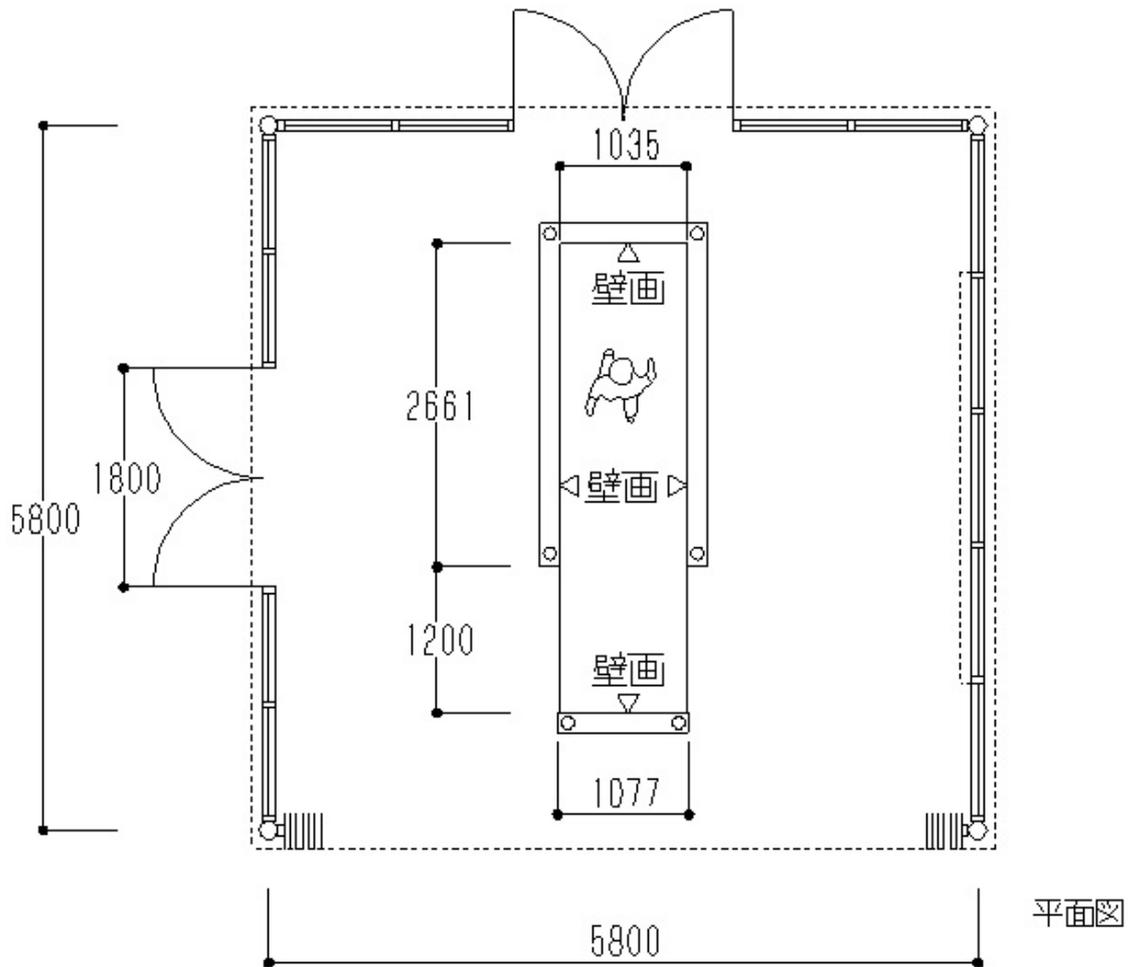
目線で壁画を見ることができる高さに設置し、発見と同じく南壁を開放。天井は、明かりが入るよう、ふたを開けたような状態で展示。鮮やかな色彩で描かれた壁画をじっくりと観賞することができます。

この他、関西大学と高松塚古墳の関わりを解説する説明パネルを設置。網干善教先生と当時の学生たちの発掘から発見に至るエピソードが紹介されます。

製作概要

- 施設名 : 「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称)
- 設置場所 : 関西大学 千里山キャンパス内(「簡文館」前庭)
- 陶板製作 : 大塚オーミ陶業株式会社
- 設計・施工 : 株式会社竹中工務店
- 製作期間 : 着工/2007年12月初旬 ~ 完成/2008年3月11日(予定)
- 協力 : 株式会社オービック

「高松塚古墳壁画再現展示室」(仮称) 配置図



【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 鶴丸、北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6368-1266

<http://www.kansai-u.ac.jp>

高松塚古墳と関西大学

奈良県立橿原考古学研究所と明日香村が実施した高松塚古墳の発掘に、関西大学の網干善助教授（当時）を中心とする考古学研究グループが取り掛かったのは、1972年（昭和47年）3月1日からでした。

高松塚古墳の発掘に参加した学生は、当初10人程度。その後、大学院生や文学部の学生や卒業生、法学部、経済学部、社会学部の学生など、男子学生19名、女子学生6名、総勢25名が網干助教授の指導のもと発掘に参加しました。

3月11日に、盗掘の際に掘られた土の中から漆塗りの棺の一部が出土。さらに19日には、男子学生が石槨（せっかく）の一部を掘りあてました。

3月21日、前日の豪雨により発掘で掘り出された上げ土が雨水を含んで重くなるなか、網干助教授の決断により、発掘調査が進められます。昼食時、留守番で他にすることがなかった網干助教授と学生2人が、何気なく土を掘りはじめました。

12時半。それまで土で埋まっていたところに穴があいて、中を覗いてみると、壁画が現れました。

高松塚古墳の発掘と壁画の発見は、関西大学の教員と学生の情熱と行動力によって成し遂げられたものでした。

高松塚古墳と関西大学を結びつけたのは、明日香村出身で、関西大学で教鞭を執っていた網干善助教授でした。

網干助教授は、地元明日香の中学校教諭や青年団長を務め、恩師である末永雅雄関西大学名誉教授が所長であった奈良県立橿原考古学研究所の所員として、地元の方々とともに明日香の京趾や古墳を長年発掘するなど、住民との間に強いつながりがありました。



測量風景



発掘調査する学生



飛鳥文化研究所・植田記念館

その後、高松塚古墳を発掘した関西大学は、1975年（昭和50年）に、当時の関西大学教育後援会会長・植田正路氏（故人）から多額の寄付を頂戴し、明日香村稲淵にセミナーハウス「飛鳥文化研究所・植田記念館」を建設。1987年（昭和62年）には、同氏の寄付を基金とした教育振興植田基金の果実を核として新館を完成させました。

以来、この施設は現地での調査・研究にとどまらず、校外授業やゼミナール、研究会や研修会など、本学学生・教職員に幅広く活用されています。

また、1975年（昭和50年）から明日香村と共催で「飛鳥史学文学講座」を開講しています。

2006年（平成18年）2月には、相互の人的・知的資源の交流と活用を図り、産業、教育、文化、まちづくり等の分野において、双方の発展と充実に寄与することを目的として、包括的な連携を行うことで合意。2007年（平成19年）10月には、高校生を対象にした「考古学ウィークエンドセミナー」を実施しました。

大塚オーミ陶業株式会社 会社概要

- 設 立 : 1973年(昭和48)年7月
資 本 金 : 3億円
代表取締役 : 社長 舟戸 正己
本社所在地 : 大阪府中央区大手通3 - 2 - 21
事業内容 : 大型美術陶板、陶板名画、装飾陶板、写真陶板、サイン陶板等の製造・販売
受賞実績 : 1973年 財団法人大倉和親記念財団賞(大型陶板製造技術)
1989年 企業文化デザイン賞(日本文化デザイン会議)
1993年 関西芸術大賞(大阪新聞社)
第3回日本建築協会賞(社団法人日本建築協会 他)
第6回N B K大賞(セラミックアートの開発)
1995年 第29回S D A特別賞/財団法人日本産業デザイン振興会会長賞
(陶板開発によるサイン表現拡大への業績)
2003年 社団法人日本建築美術工芸協会特別賞

株式会社オービック 会社概要

- 設 立 : 1968年(昭和43年)4月8日
資 本 金 : 191億7,800万円
代表取締役 : 会長兼社長 野田 順弘
本社所在地 : 東京都中央区京橋2 - 4 - 15
社 員 数 : 連結:2,720名 単体:1,267名(2007年3月末日現在)
売 上 高 : 連結:457億4,600万円 単体:389億3,400万円(2007年3月期)
事業内容 : システムインテグレーション事業
サポート&サービス事業
オフィスオートメーション事業